



2020年度 付中通信第19号

オンライン開催

2021.3.12 (金)

高水高等学校附属中学校長 宮本 剛

U-come UNESCO communication meeting

初オンライン (参加費無料)

2021.3.21 [sun] 13:00-16:00

申込締切: 2021.3.20 [sat]

会場 オンライン: Zoom

【対象】中学生以上~35歳未満の方 【参加費】無料

【主催】U-come

Facebook @twitter, Instagramもやってます!

U-come 公式 LINE

U-come 公式 YouTube

https://www.u-comespace.com/

https://u-comespace@gmail.com/

お申し込みは
こちらから!

詳しくは
こちらから!

話して知ることある。
書いて知ることある。
読んでも知ることある。

あの回には、様々な社会問題がありました。あなたが気づいた問題について意見を述べた。みんなの意見を聞いて、みんなで考えた。みんなの意見を聞いて、みんなで考えた。みんなの意見を聞いて、みんなで考えた。

お申し込みは、こちらから!

詳しくは、こちらから!

話して知ることある。
書いて知ることある。
読んでも知ることある。

今年、コロナ禍で流行 (はや) ったこと。ぱっと頭に浮かぶのは、リモートワーク、テレワーク、そしてオンライン開催。そのツールとして、それまで耳にしたことのなかった ZOOM が一世を風靡 (ふうび) しました。

ま、インターネットがとにもかくにもそれらすべてに関わっているわけですが、もし、それらがなかったら、経済活動は完全にストップしたか、感染者を見放したか、それぞれ非情な2者択一を迫られていたのではないかと、そっとします。

第17号でお話したとおり、子どもたちへの教育を停止してはならないという国家的判断から、学校休業中にも学習支援ができるように、政府は多額の予算をつぎ込んで、GIGA スクール構想を一気に実現しました。もう小中高すべての校種にわたり、遠隔教育のできる環境は整備されています。

感染症予防に気を遣いながらの生活はまだしばらくは続きそうですが、コ

ロナ禍の置き土産も見えてきつつあります。

まず、予想されるのは、仕事のリモート化が否応なく実証され、能率と質が落ちないとわかれば、コロナ終息後も引き続きリモートワークが中心、あるいは取り入れられる事業所が確実に増えるということです。学校教育では不登校生徒に対する指導の幅が広がるでしょう。不登校の最大の課題は、なんといたっても授業が受けられないということなのですから。

しかし、その発想はやがて学校教育の死を招くでしょう。なぜなら、その発想は学校に行かなくても学習産業が制作した歯切れのよい授業動画や学習アプリによって、学校の機能が代替されるという考え方に簡単につながってしまうからです。ここで、もう一度立ち止まって熟慮すべきは学校とはどういう空間なのかということだと思います。

学校という空間で、仲間と共有する時間にどういう意味があるのか、その部分に光を当てて考えないと、学校教育不要論に至ります。第一、学校になんか行かなくなっちゃって、高等学校卒業程度認定試験に通り大学入学試験に合格すれば、進学の方法は開けます。費用という面ではそれが一番効率のよい進学方法です。それなのに、なぜ、この方法を推奨することがためられるのか。

もう一つはオンライン研修会が一般的になっていくことです。本校は生徒の経験値を、多様な人たちとの交流を基調とする校外活動の活性化によって高めてきたという歴史があります。そんな校外活動のうち、情報のやり取りで済んでしまうようなコンテストや研修の類が、どんどんオンライン開催に置き換わってきました。参加しないよりはまし、なわけですが、こちららも遠方での開催となれば、交通費を惜しんで今後は逆にオンライン開催を望む声が高まったりしはしないか。

そんな事態におびえているのは、果たして私だけでしょうか？



～ポストコロナ時代の
新しいオリンピック
のかたちとは？～

第一回 世界架け橋コースフォーラム

オリンピック・パラリンピック について語ろう！

Program

- 一部 基調講演 (舛本直文氏)
- 二部 パネルディスカッション
- 三部 グループワーク

Guest



舛本 直文 氏
(東京都立大学・
武蔵野大学客員教授)
1980年東京都立大学講師・助教授、
首都大学東京教授を歴任。
2016年に同大学定年退職。
その後4年間同大学オープンユニバーシティ
特任教授を務め、2020年3月同大学退職。
同年4月より東京都立大学客員教授。
2017年より、武蔵野大学客員教授 他



高田 朋枝 氏
(東京都ゴールボール連絡協議会理事)
幼い時に網膜色素変性症で視力が低下し、
現在は明暗が分かる程度。
筑波大学附属盲学校在学中に
ゴールボールと出会い、
2008年に北京パラリンピック出場。
大会後、欧米視察の経験を生かし普及活動に尽力。

主催：世界架け橋コース・ジャパン 協力：NPO法人Auniversity/ツナグ〜across2020〜/上智大学Go Beyond/F.C.VISION
後援：NPO法人おもてなし国際協議会

3/20(土)
10:00~12:45
@zoom

〈申込フォーム〉
<http://bit.ly/30oT5WZ>



参加費：無料

〈お問い合わせ〉
080-3572-9025 (担当 長野)
omotenashi.i.c@gmail.com